

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	スーパー（店 長）	単価の動き	・新型コロナウイルスの影響もあり、いまだに客のまとめ 買いが続いている。客単価が前年よりも高くなっている。
	○	スーパー（役 員）	お客様の様子	・地元産品の発送が増加している。旅行、外食分の費用を 使って親類にギフトを贈るなど、きずな需要のような消費 が起きている。
	○	コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・買上点数が増えており、それに伴って客単価も上がって いる。
	○	高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・来客数が増えており、売上も前年並みで推移している。
	○	観光名所（従業 員）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンを利用した国内 観光客が増えており、にぎわいを取り戻しつつある。地域 共通クーポンを利用した土産品の購入に対しても意欲的な 人が多い。現状、個人客はほぼ例年並みに戻っており、イン パウンドの団体客のみゼロという状況である。
	□	商店街（代表 者）	来客数の動き	・当地において、10月下旬から新型コロナウイルスの感染 が拡大していることで、中心部を訪れる来街者が急激に減 少しており、昼夜を問わず閑散としている。例年、年末の 買物を控えて、客の出控えがみられる月であるが、今年は 駐車場、バス停、人気店などを確認しても利用者が少なく、 各店舗の来客数は例年の6割程度と見込まれる。
	□	商店街（代表 者）	販売量の動き	・果物の収穫量は例年どおりである。ただ、新型コロナウ イルスの感染者数が減ってこない現状から、輸出物の先行 きがみえない状況にある。
	□	スーパー（役 員）	来客数の動き	・ここ数か月、新型コロナウイルスの影響で来客数が前年 から2%前後落ち込んでいるものの、客単価が前年を上 回っており、売上を押し上げている。そのため、売上が高 止まりしている状況が続いている。
	□	コンビニ（エリ ア担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響により、客の動きが鈍化して いる。
	□	家電量販店（店 員）	販売量の動き	・当地では、11月に入りプレミアム付商品券が発行された ことから、月後半から店内に活気が出てきている。
	□	その他専門店 〔医薬品〕（経 営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス対策も含めて、客からの健康相談が 増えている。売上についても、消費税増税前の駆け込み需 要の反動減がみられた9月を除けば、前年を上回ってい る。こうしたことから、当業界は現在まで新型コロナウ イルスの影響を受けていない状況にある。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・景況感は9～10月と若干の上向き傾向にあったが、ここ に来て大変厳しい状況となっている。これから年末に掛け て、景況感はまだまだ悪くなることが懸念される。
	□	美容室（経営 者）	来客数の動き	・数か月にわたって同じような来客数で推移しており、余 り変動がみられない。良くもならない代わりに悪くもなら ない状況が続いており、客の動きが固定化してきているよ うにみられる。
	□	美容室（経営 者）	販売量の動き	・売上、来客数のいずれについても3か月前と比べて大き な変動がみられない。
	▲	商店街（代表 者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で客の反応が悪くなってい る。特に繁華街の状況が悪いことで客のマインドが右肩下 がりになっている。
	▲	一般小売店 〔酒〕（経営 者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の第3波により、前月まで 持ち直し傾向にあった売上に急ブレーキが掛かり、再び厳 しい状況に戻ってきている。
	▲	百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、来客数の減 少傾向に歯止めが掛からず苦戦している。固定客の多い特 選ブティックなどの減少幅は小さいが、レストラン、喫茶 などは壊滅的な状況となっている。

▲	百貨店（営業販促担当）	来客数の動き	・中旬以降の新型コロナウイルスの感染拡大が要因で来客数が大きく落ち込んでいる。特に年配客の動きが悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者やPCR検査実施者の増加と反比例する形で来客数が減少しており、春先と同じような状況に陥っている。特に週末の来客数減少が顕著であり、客単価が上昇してもカバーしきれないほどである。また、今年は雪が少ないため、冬靴や重防寒衣料などの季節商材についても、前年のような動きがみられない。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響で、近場で買物するという客の行動が強まっていることから、当業界では売上が伸びているが、客の買物の仕方を見る限り、実態としての景気が良いようにはみえない。
▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染拡大の影響に加えて、地場の基幹産業が奮わないことから、消費者マインドの低下がみられる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年、冬場を迎えると4月頃まで市場が縮小する傾向にあることから、今年も3か月前と比べて景気が落ち込んでいる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・11月ということでタイヤ交換を目的とした客の来店がみられ、忙しかったが、そこからつながるような商談が余りみられなかった。客の動きが鈍く、新型コロナウイルスの影響が大きく出ている1か月であった。
▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第3波の影響で自粛ムードが強まっている。外に出ることに対する不安が客の間に広がっていることで、前年よりも来客数が落ち込んでいる。
▲	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、販売量が減少傾向にある。
▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの効果により、観光客が増え始め、例年並みとまではいかないまでも、大分上向きになっていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて札幌市がGo To Travelキャンペーンの対象から除外されたこと、当地でも感染が拡大していることなどから、段々と客の動きも悪くなっている。観光客の入込も減っており、今後、景気はますます悪くなることが懸念される。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染者が急増しているためか、11月中旬から売上が下がり始め、月全体では前年比30%を下回るなど、景気はやや悪い状況にある。月前半はランチが好調だったほか、Go To Travelキャンペーンの効果でホテルなども活況だったため、とても残念である。現在、夜は予約客もみられず、振りの客も少ないため、開店休業状態である。一方、地方の飲食店ではプレミアム付食事券の利用が活発であり、夜も盛況な店舗がみられるなど、都市部ほど神経質な状況がみられていない。また、札幌市において繁華街の接待を伴う飲食店に対する営業自粛要請が始まったが、直前まで客入りが絶好調だった店舗も一部でみられるようであり、そのことから、当分の間、全国的な感染者が増えるとみる向きもある。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・9～10月に掛けて、Go To Travelキャンペーンの効果で、個人観光客のみならず、これまで皆無だった団体旅行客に復活傾向がみられたことで、ようやく宿泊施設や貸切りバス事業者なども先行きに期待を持てる状況となっていたが、11月に入り、札幌市を中心に新型コロナウイルスの感染が拡大し、Go To Travelキャンペーンの対象から札幌市が除外されたことで、客から北海道観光自体が敬遠されるようになることが懸念される。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・少しずつ回復傾向にあったが、新型コロナウイルスの第3波が拡大している影響で、数少ない団体旅行が直前で取消しになるなど、再び厳しい状況となっている。

▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染者が北海道内で急増していることで、夜間の人の動きが停滞しており、当社の売上にも影響が生じている。5月ほどの悪さではないが、売上は前年比40%程度まで落ち込んでいる。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・これまで大型商業施設での出店販売で販売量を維持してきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で都市圏での出店販売に制限が掛かり、実施困難となっている。振りの客を獲得しにくくなったことで、販売量が再び減少に転じている。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・11月に入り、Go Toキャンペーン事業の効果が縮小している。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染者数が増えているとの報道が連日出るたびに来街者が減少している。当店の来客数も減っている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・Go To Travelキャンペーンの対象から札幌市が除外されるとの報道を受けて、ホテルや観光関連の景況感は一気に下落した。また、感染者が高止まりしている状況から、当地中心部における夕方以降の出入も急激に減少しており、一般消費も含めて景況感は大幅に悪化している。最悪な状況にあるのは観光業だが、飲食店も3度目の自粛要請が出されたことで壊滅的な打撃を受けており、もう虫の息である。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・売上は前年比54.8%まで回復してきたが、11月下旬にGo To Travelキャンペーンの対象から札幌市と大阪市が除外されたことで、来客数が急激に減少した。
×	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、徐々に客が減っている。Go To Travelキャンペーンの対象から札幌市が除外されるという報道の1週間ほど前から、減少傾向が顕著になり、団体客も少しずつ姿を消している。現在の観光客数は前年比で8割ほどの減少とみられる。
×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・11月に入り、新型コロナウイルスの感染者が増えたことで、北海道知事から札幌市を対象とした不要不急の外出に対する自粛要請が出されており、そのタイミングから来客数が減ってきている。
×	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの第3波が襲来していることで、人の動きが一気に落ち込んでいる。特に当地は全国ニュースに取り上げられるほどのホットスポットとなったため、周辺地域からの来客数が大きく落ち込んでいる。
×	スーパー（従業員）	それ以外	・新型コロナウイルスの影響で特に外食、観光の景況感が一段と悪化している。当社関連の旅行代理店も来年3月に販売窓口の業務停止を予定している。本業である食品小売については、春先の緊急事態宣言の際には、来客数の減少を客単価上昇が補い、前年を上回る売上となったが、現在は客単価の上昇幅が大きく低下していることから苦戦している。
×	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこについて、増税後の販売量減少が続いている。たばこは単価が高いため、全体売上にも影響が出ており、前年並みの売上確保が困難な状況となっている。
×	衣料品専門店（店長）	それ以外	・景気が良いと思える要因が1つもない。客が誰も来ない。
×	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数が前年の80%となるなど、大幅に減少している。
×	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・一時は新型コロナウイルスの感染状況が収まりつつあり、Go Toキャンペーンの効果もあったことから、景気が回復しつつあったが、ここに来て再び感染拡大傾向に転じたことで、活動自粛がみられるようになり、観光客の動きなどもなくなってきた。

	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・当地では新型コロナウイルスのクラスターが発生したことから、大変厳しい状況になっている。閉店する店も出てきた。当店も11月20日過ぎから営業を休んでいる。
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・11月に入り、札幌市を始めとした北海道、東京、名古屋、大阪などの大都市圏において、新型コロナウイルス感染者数が増加し、国の分科会が示すステージの判断基準が上がっていることを受けて、札幌市と大阪市がGo To Travelキャンペーンの対象から外れたことで、宿泊予約のキャンセルが大量発生し、新規予約も完全にストップし、5月の緊急事態宣言時のような状況に戻ってしまった。
	×	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が拡大しているなか、宿泊予約、宴会予約、レストラン予約の取消しが相次いでいる。札幌市がGo To Travelキャンペーンの対象から外れたことで利用客の減少が一層加速している傾向にある。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、人の動きが止まっている。
	×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・北海道に限らず全国的に新型コロナウイルスの感染状況が再度拡大していることから、どうみん割やGo To Travelキャンペーンの申込件数が増えていた3か月前と比較すると、来客数、問合せ件数が目に見えて少なくなっている。来客は1日1件あるかないかの状況となっている。
	×	旅行代理店（従業員）	それ以外	・少し落ち着きつつあった新型コロナウイルスの感染状況がこの1か月で急速に悪化しており、Go To Travelキャンペーンなどの国の施策も一部で見直しが進められていることから、現状の景気はかなり悪くなっていると言わざるを得ない。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者が増えていることを受けて、11月中旬に札幌市を対象に不要不急の外出自粛要請が出され、下旬にGo To Travelキャンペーンの対象地域から札幌市が外れたことで、11月は日を追うごとに入客がなくなっている。夜の街は閑散としており、タクシーの利用も激減している。売上は10月まで前年比マイナス30%程度で推移していたが、11月はマイナス50%程度まで落ち込んでいる。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第3波到来により、入客が激減している。特に接待を伴う飲食店でクラスターが発生した影響で、夜間の売上が激減しており、11月の売上は過去最低を記録した5月をも下回っている。このような景気の急激な悪化は過去に経験がないほどである。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関連も国内旅行も予約キャンセルが続出している。夜の街エリアは客待ちしていてもいつ客が乗るのか分からないほどのひどい状況であった。むしろ中心部から離れた商店街などの方が地元客を中心に客の利用が少しはみられていた。毎月どんどん景気が悪くなっている状況にあり、売上は例年の半分以下である。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・10月以降、当地で新型コロナウイルス感染者が発生しており、日を追うごとに感染者の数が増えていることから、人の動きがなくなり、タクシーの稼働状況も前年の60%台まで落ち込んでいる。雇用調整助成金の活用も考えなければいけない状況である。
	×	美容室（経営者）	お客様の様子	・身近で新型コロナウイルス感染者が出てきたりするなど、緊張感が増している状況にある。外出を控えている人も増えている。
	×	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの第3波が発生していることで、ムードが非常に悪くなっており、消費が段々と冷え込んできている。
企業動向関連	◎	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・テレワークやステイホームによる在宅時間が増えていることで、家具インテリアに対する支出が増加している。また、停滞していた請負物件も動き始めた。

(北海道)	◎	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・当社は日売りの販売に加えて、客先への提案活動が主体となる設備案件や大型受注物件も手掛けていることから、ものづくり関連の取引先も多く、ある程度の仕事量がみえている状況にある。そのため、今のところ受注量は安定している。
	○	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスに対する警戒は続いているが、IT、通信関連では設備投資の流れが継続している。また、新型コロナウイルス感染防止に伴うリモートワークやオンラインに関連したニーズが増えており、案件量、受注量のいずれも堅調に推移している。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・販売量は前年比で2割前後落ちたままである。ただ、底を打って持ち直している様子もうかがえる。
	□	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・工事の追い込み期を迎えて、今年度の出来高は順調に積み上がりつつあるものの、新型コロナウイルスの影響で民間設備投資計画の規模縮小や延期の話が出てきており、足元の新規受注が思うように獲得できていない。
	□	輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・秋口まで回復傾向にあった飲料と本州向けの生乳の荷動きがここに来て減少している。消費の落ち込みが一因とみられる。北海道から出荷する農産品関連の輸送は始まったばかりだが、今のところ順調に推移している。ただし、今後も順調に推移するかは、一般消費の動向次第である。
	□	金融業(従業員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスへの慣れから、日常の消費活動が活発化しているが、ここに来て新型コロナウイルスの感染状況が再拡大していることから、行動の制約やマインドの悪化が生じており、消費や投資を抑制し始めている。総じてみれば景気は3か月前と比べて変わらない水準にある。
	□	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・引き続き売上が前年並みの水準で推移している。
	□	その他サービス業 [建設機械リース] (支店長)	受注量や販売量の動き	・受注量は維持しているが、取引先の設備投資意欲が低い状況は変わっていない。
	▲	建設業(従業員)	取引先の様子	・年末や年度末にしゅん工期限を迎える工事が佳境に入っているが、新規着工物件が少ないため、総量が減少している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・10月まで新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていたこともあり、景気はやや回復傾向にあったが、11月に入り地方都市においても感染者が増加していることから、以前の状態に戻ってしまっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・前年と比較して不動産の売買、建物の新築、改築工事が減少している。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が月を追うごとに拡大していることで、自粛ムードが自然と広がっている。営業活動のために客先を訪問することに企業がちゅうちょする状況となっていることから、依然として景気回復を見込めない厳しい状態にある。
	▲	コピーサービス業 (従業員)	取引先の様子	・業種による差が非常に大きくなっているため、判断に難しい面があるが、全体的に取引量が落ち込んできている。
	▲	その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者)	取引先の様子	・民間企業からの新規受注が、自治体などの公的機関と比べて明らかに減ってきている。来年度の設備投資を相当減らすという話も既にみられている。
▲	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	取引先の様子	・民間企業において、設備投資のマインドが下がってきているなど、様子見の動きが強まっている。	
×	広告代理店(従業員)	取引先の様子	・コロナ禍の影響が続くなか、北海道の新型コロナウイルス感染者が急増していることで、景気が上向きになるような要素が全て消えてしまった。	
雇用	◎	—	—	—

関連 (北海道)	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における10月の有効求人倍率は0.84倍であり、7月時点と同率となったが、前月との比較では0.04ポイント上昇している。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は3か月前と比べると増加傾向にある。どうにかしてコロナ禍から立ち直ろうとする企業の動きもみられる。ただし、企業が即戦力の人材を選別するなど、採用基準が上がっており、未経験の人材はなかなか採用に至らない。一方、観光関連の業界は苦戦が続いており、リストラなどの具体的な経費圧縮策を検討する企業が増えている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染者数の増加が地方都市にも及んでいることで、自粛ムードが強まっており、影響が大きくなっている。現状から4～5月の状況に似てきているとみられる。ただ、郊外型の飲食店やスーパーは意外と活気がある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が明けてから、新しい生活様式の浸透やGo Toキャンペーンなどにより、経済活動の復活を感じていたが、当地で発生したクラスターの影響で6～7月頃の状況に戻ってしまった。地場タクシー会社で50名ほどのドライバーを一斉解雇するというショッキングな出来事もあった。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・10月の有効求人倍率は1.21倍と前年を0.02ポイント上回ったものの、新規求人が前年を下回っている。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数が少し戻りつつあったが、新型コロナウイルス感染者が増加したことで冷や水を掛けられた格好となっている。Go To Travelキャンペーンにより、ホテルや小売が若干上向き傾向にあったが、今回の感染拡大は終わりがみえないため、先が見通せなくなった。道外からの観光客の入込も余り期待できない。道内需要だけでは雇用者数の増加も期待できない。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・国の緊急事態宣言解除後、徐々に景気回復の動きがみられていたが、11月に入り再び新型コロナウイルスの感染拡大傾向がみられ、当地を対象に外出自粛要請が出されたこともあり、年末の繁忙期に備える時期にもかかわらず求人数が増えてこない状況にある。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・Go Toキャンペーンなどで景気が盛り上がりそうところで、11月下旬にGo To Travelキャンペーンの対象地域から札幌市が除外されたことで、キャンセルなどの動きが出ている。このため、観光産業についてはいまだに厳しい状況から立ち直ることができず、改善傾向が見込めないことから、景気はやや下向いている。
	▲	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・2021年入社に向けた大学生の内定率は春以降最悪の状況が続いており、好転する要素が全く見当たらない。また、オンラインでの会社説明会や採用試験で内定に至った学生は、企業の雰囲気をつかみきれていないことから、入社直前になって辞退するケースが出てくることも見込まれる。このため、業績悪化により少数精鋭での採用活動を行っている企業にも痛手が生じる懸念がある。
	×	*	*	*